

方剂名	効能	生薬組成	
		主治および証	病機 方意
書籍			
治風剂 平熄内風剂 5			
てんまこうとういん 天麻鈎藤飲	平肝熄風・清熱安神・補益肝腎	天麻 9g・鈎藤鈎 12g・石決明 18g・山梔子・黄芩各 9g・牛膝 12g・杜仲・益母草・桑寄生・夜交藤・朱茯神各 9g 水煎し服用する。	
雑病証治新義	<p><主治> 肝陽上亢、肝風内動 頭痛、めまい、耳鳴、振戦、ふらつき、不眠、多夢、筋肉のひきつり、けいれん、のぼせ、目の充血、舌質が紅絳、脈が弦数などを呈す。</p> <p><病機> 肝腎陰虚のために肝陽が上亢して肝陽化風を呈した状態である。 肝陽上亢、化風で、風陽が上擾するため頭痛、めまい、耳鳴、ふらつきが生じ、心神を擾乱すると不眠、多夢がみられる。肝風による筋脈擾動と、陰虚による筋脈不養により、振戦、筋肉のひきつり、けいれんなどを呈する。陰虚陽亢で内熱を伴うので、身体の熱感、のぼせ、ほてり、目の充血などをみることが多い。舌質が紅絳、脈が弦数は陰虚陽亢を示す。本証は肝腎陰虚が基本にあるが、肝陽化風の標が主体で陰虚は明らかではない。</p> <p><方意> 平肝熄風、清熱安神を主体にし補益肝腎を配合する。 主薬は平肝熄風の天麻・鈎藤鈎・石決明で、清肝瀉火の山梔子・黄芩は肝熱を清降して偏亢させない。夜交藤・朱茯神は安神寧心に働く。引血下行の牛膝と、活血利水の益母草は、内熱の出路を開く、杜仲・桑寄生・牛膝は、肝腎を補益して滋陰柔肝し、肝陽の偏亢を防止する。</p> <p><参考> 風動が甚だしい場合は、羚羊角を加える。</p>		